

インタビュー

新規事業にも注力し、品質保証を通して

社会に安全と安心を提供する！

マークテック(株)

常務執行役員
グローバル営業部門管理 営業部長

市川 大介氏に聞く



マークテック(株)(東京都大田区大森西4-17-35、☎03-3765-1171)は、「非破壊検査事業」並びに「マ

キング事業」における製品とサービスの提案を通じて、ユーザーの品質保証活動に寄与している。

近年、第三の事業の柱構築のため、30年先をも見据え、新たにM&Aを中心とした、資本提携/業務提携/技術提携等による「品質保証」に関連する技術力ある中小製造企業の受け皿「技術継承事業」を構築すると

いう戦略的なビジネスモデルにも取り組んでいる。さらに、海外での実績を

基に、(トップシェアを有する)探傷剤や洗浄剤といった化成品の受託生産ビジネスを本格的に始動している他、R.T事業を拡大する

の取組みにも注力している。本紙では、同社・市川大介常務執行役員グローバル営業部門管理営業部長に、P.T・M.T事業の動向や注力している取組み、今後の方針などについて尋ねた。

◆ ◆ ◆
——今期(2022年12月期)の「P.T・M.T事業」についてお聞かせ下さい。
市川 1~6月の上期を

振り返ると、主要客先である自動車関係の生産体制が依然として厳しい状況にあるなど、我々を取り巻く事業環境は総じて前年と同様の傾向が続いている。このような中、鉄鋼分野において、造船業界の受注回復を背景に同分野向けの生産が回復し、また、航空業界にも回復の兆しが見られるなど、明るいニュースも聞こえている。

しかしながら、先述のとおり、全体的な市況は総じて前年並みに推移していることから、1~6月の消費品の需要も前年並みの水準となった。なお、昨年はコロナ禍への対応が大きな課題であったものの、本年はコロナ禍に加えてウクライナ情勢やインフレ、原材料・部品価格の高騰、これらに伴う値上げや納期遅延が様々な分野で行われるなど、対処すべき課題が大幅に拡大し、収益を圧迫している。

このように厳しい事業環境が続くものの、政府の方針に基づき、原子力発電所9基の再稼働も計画されていることから、今後の探傷剤の需要増を期待したい。

一方、機械装置の需要については、引合いへの対応を進める中、検査の無人化を実現する「全自動磁粉探傷装置」の開発に注力している。

海外事業については、北米市場が好調に推移し、イ

影響を注視している。方針として、社外にはこれまでに申し上げた新たな取組みを積極的に展開し、社内には当社の持続可能な成長を支える「社員を大切に、健康を考慮した働き方及び人材育成の充実に努める」。

そして、30年先をも見据えて、第三の事業構築のため「品質保証に関連する技術力ある中小製造企業の受け皿「技術継承事業」を着実に推進し、企業理念「品質保証を通して社会に安全と安心を提供する」の実現に努めて参りたい。

——ありがとうございます。

ンド市場も順調に回復、韓国及び東南アジアは前年並みで推移。中国市場はロッキダウンの影響により減速したものの、コロナ次第では再回復も予想される。

——どのような取組みに注力されていますか？

市川 SDGs(持続可

能な開発目標)の取組みと併せて、地球環境に配慮した付加価値の高い製品(「お客様の廃棄物を減らす/リユースできる製品)の開発・展開を強化している。

自動化ソリューションでは、磁粉液評価装置が軌道に乗り始めている。

新規事業として、探傷剤や洗浄剤をはじめとする「化成品の受託生産ビジネス」を本格的に始動し、今年3月には専用のホームページも立ち上げる中、①生産設備がない&人員がいな

より、早速お話を頂戴している。また、新たにX線検査装置を導入して受託検査の体制を整備し、P.T・M.TにR.TやUTなども加えた、非破壊検査の「ワンストップ」ソリューションの体制を強化している。

この他、金属積層造形やパワー半導体などの品質保証に関わるサービスにも取り組んでいる。

——今後の見通し&方針をお聞かせ下さい。

市川 '22年は原子力発電所案件を除き、前年並みの市況を見込むものの、仕入れコスト増や円安が、当社を含めた業界全体に与える



磁粉液評価装置

良を行える会社を探している(3)生産品のロット数とコスト面で不満がある(4)海外展開を考えているがノウハウがない——などの課題を抱えるお客様

抱えるお客様

抱えるお客様